

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	岩下 好美 【ジェンダー学際研究専攻 平成21年度生】	要 旨
論文題目	ひとり親の父の役割遂行における資源と葛藤—アイデンティティ理論のアプローチから—	<p>本論文では、ひとり親の父家庭に注目して、固定的性別役割分業観が根強く残るわが国において、男性がひとりで育児や子育ての責任を担うことから生じる家庭と職場間の葛藤や父親アイデンティティの形成などについて検討した。これまでのひとり親に関する研究や政策の多くが母子家庭に焦点を置いている。しかし、ひとり親の父家庭では住宅や自動車ローンを抱えた「隠れ貧困」が多いこと、相談相手が少なく孤立しがちなことなど様々な問題があることを筆者は指摘する。その上で、ひとり親の父アイデンティティを探究すること、職場と家庭における二重役割遂行がどのように行なわれているのかを確認すること、父親がどのようにサポートネットワークを形成しているのかを明らかにすることにより、今後のひとり親の父支援の在り方を提示することを本研究の主な目的としている。</p>
審査委員	(主査) 教授 石井クンツ昌子	<p>筆者は Burke & Stets のアイデンティティ理論を援用して、ひとり親の父の職業と父親アイデンティティの関係性、家庭と職場における葛藤、二重役割遂行を促す資源、ネットワーク構築の必要性について、配偶者と生別あるいは死別した 10 名の父親から収集した半構造化面接データを継続的比較法により分析して貴重な結果を提示した。</p> <p>主な結果として、全体の父親に関しては、子育てをするようになり子どもへのポジティブな気持ちが一層深まったこと、職場では支援をしてくれる雰囲気が存在する場合が多いこと、ネットワークから何らかのサポートを受けていること、しかし子育てや家事に自信を持ってないことなどがあげられる。また、筆者はひとり親の父親アイデンティティは社会規範、家庭と職場における資源、サポートネットワークから形成されると結論付けている。</p> <p>本論文は、先行研究の蓄積が少ないひとり親の父家庭に焦点を置き、多様な家族が支持される社会への方向性を明示できたこと、社会学的なアイデンティティ理論を援用して、ひとり親の父親の家庭役割と職場役割の関係性を明らかにしたこと、データ収集が困難なひとり親の父親 10 名から詳細なインタビューデータを収集できたこと、本研究結果から教育・職場・政策面での貴重なインプリケーションを導き出したことに関して高い評価を得た。</p>
	教授 小玉 亮子	
	教授 平岡 公一	
	准教授 青木 紀久代	
	教授 榊原 洋一	

